

北海道の名付け親 知ってますか？



写真提供：
松浦武四郎記念館

文化15年（1818年）2月6日、伊勢国に生まれた松浦竹四郎（武四郎）は28歳から41歳までの間、6度に渡って蝦夷地の調査を行い、蝦夷地の地理や動植物、アイヌ民族の文化を記した紀行本や、蝦夷地（国後島、択捉島を含む）の地図「東西蝦夷山川地理取調図」を出版しました。

明治新政府が成立すると、大久保利通は武四郎を政府に登用するよう働きかけ、武四郎は「蝦夷地開拓御用掛」に任じられました。明治2年（1869年）、開拓使が設置されると、これまでの実績と、誰もが認める蝦夷地通であった武四郎は、「開拓判官」に任命されます。

武四郎は、「蝦夷地」に替わる新しい名称を考えることに携わり、「日高見道」、「北加伊道」、「海北道」、「海東道」、「東北道」、「千島道」の6つの案を上申しました。

政府はその中から「北加伊道」を採用し、「加伊」を「海」に改め、蝦夷地を「北海道」と改称したとされます。

さらに、郡名や国名（今の支庁名）についても、アイヌ語の地名に基づいた提案をおこなっており、武四郎は「北海道の名付け親」と言われています。